家庭教育支援

中央幼稚園・もいわ幼稚園

【研究副主題】　『園と家庭が一体となって子どもの育ちを支えるために』

【研究の重点】　遊びや生活を通した学びや一人一人の幼児の育ちについて家庭と一緒に考えていくために

Topic 1　子どもの興味や関心をおたよりで共有

POINT　「やってみたい」を大切にしよう

飼いたいけど、どうするの？

年長児が、自分で捕ったチョウを飼いたいと世話をしていた。花の蜜が必要と考え、花の量を工夫して世話をするがうまくいかなかった。逃がすことを選んだり、図鑑で調べて砂糖水をあげたりしながらチョウと向き合う子どもたち。試行錯誤しながら、チョウが翌日も生きていることを喜んでいた。

研究だより

POINT　子どもの姿や保育者の援助の『いいね！』を園と家庭で共有

いいね

保護者の感想

- 飼うための方法をいろいろ考え、うまくいかなくても自分たちで受け止め、次につなげる姿がいいね！
- 失敗から得た成功体験を必要な経験と捉えて関わる保育者の援助がいいね！
- 失敗しても次にどうすればいいかを子どもたちが考え、工夫したり挑戦したりしている姿がとても素敵だなと思いました。

おいしいお花の蜜を吸ってね

POINT　園での経験と保護者の協力でさらなる「やってみたい」を実現

後日、保護者が園の遊びや子どもの関心、保育者の意図を理解し、自宅で捕まえたチョウを園で飼ってみてはどうかと園に連れてきた。子どもたちは経験を生かして一週間飼育した後、チョウが蜜をよく吸っていた花の上に放してあげた。

●研究アドバイザーから　北海道大学大学院 教育学研究院　准教授 川田 学 氏

幼児教育とは環境を通した教育であり、環境を通した教育とは子どもが自分でやりたいことを見付け、展開していくことです。環境を構成し、再構成しながら遊びが続いていく『プロセス』が重視されます。

子どもが遊びを展開していく過程や遊びに込めた思いを『遊びのプロセス』として保護者と共有することで、保護者にも遊びの価値が伝わります。昔は地域のつながりがあり、子どもの『遊びのプロセス』も共有しやすかったのですが、現代はそれが少なくなっています。社会状況が変わる中、保護者との信頼関係の構築には『遊びのプロセス』を共有する機会をつくることが大切になってきます。

また、子どもは『面白いから遊ぶ』という中でいろいろなことを学んでいます。学童期を含めて、『子どもは総合的な経験を通して学び、成長していくこと』を家庭とも共有し、その学びが生涯に通じた成長につながることをしっかり伝えていくことも大切です。

Topic 2 保護者も一緒に遊びに参加する『保育参加』

POINT 幼児の今の育ちを伝えて共に子どもを支えよう！

参加する保護者には、事前に『子どもなりに試していることを認める』『子どもの考えを導き出す関わり』の大切さを知らせ、遊びを通して学ぶ姿を見守りながら関わってもらうようにした。園庭のサクランボを、何とか採ろうと考えて試す子どもたちの思いに寄り添う保護者の姿が見られた。

POINT 保護者同士のつながりをつくるなら保育参加後の懇談が有効

POINT 保護者の存在が心動く環境に

木に登ってサクランボを採ろうとする保護者を見て、自らも挑戦したり、採る網を用意したりするなど、幼児の主体性が見られた。保護者は我が子以外にも積極的に声を掛けながら遊びを楽しむ姿が見られた。

レポート

POINT 『保護者レポート』が子どもの育ちを実感するツールに

わかったこと

子どもの育ちを家庭と一緒に考える

- 園と家庭が同じ思いをもって子どもに関わることで、子どもたちの『やってみたい』を実現しようとする姿につながる。
- 保護者が園生活に参加する取組は、保育者と保護者や保護者同士のコミュニケーションを通して具体的な子どもの姿を知り、子どもたちの育ちを実感できる機会となる。この体験が、子育ての安心感につながる。
- お便りやレポート等、園と保護者がつながるツールの活用は、子どもの育ちを共有し、保護者が子どものことを見つめる機会になる。また、ツールを活用することで子どもの素敵なところを保護者と話したり、共有したりするきっかけをつくることができる。